

学校法人東放学園
東放学園音響専門学校 殿

学校関係者評価委員会
(東放学園音響専門学校)

2025(令和7)年度 学校関係者評価報告書

1. 学校関係者評価委員

〔学校運営に関する有識者〕(委員長)

奈木野 浩	東放学園音響専門学校 元校長
-------	----------------

〔就職先の企業および業界関係者〕

加藤 努	日本舞台音響事業協同組合 副理事長
------	-------------------

〔高校の教員〕

桜井 伸一	東京都立晴海総合高等学校 主幹教諭 キャリアカウンセラー 国際ビジネス系列担当
-------	--

〔保護者(卒業生)〕

中島 亜弓	在校生保護者(音響芸術科1年) (音響技術科 卒業)
-------	-------------------------------

2. 事務局

〔学校教職員〕

酒井 努	東放学園音響専門学校 校長
和田 一夫	同 副校長
佐野 僚	同 教務教育部 部長
小山内 宙	同 学務管理部 部長(事務局)
舟橋 亜里紗	同 音響技術科 学科主任
植木 思衣名	同 音響芸術科 学科主任
沼尾 悠太	同 学務管理部(事務局補佐)

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

- ①2025年7月2日(水)18:00～19:30 東放学園音響専門学校 清水橋校舎 2階 2S1 教室
②2025年8月26日(火)16:00～18:00 東放学園音響専門学校 渋谷校舎 2階 2A3 教室

4. 学校関係者評価結果

評価基準

4	適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
3	ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
2	対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
1	全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

「2024年度 東放学園音響専門学校 自己評価報告書」に基づき審議、検討し、以下の通り報告する。

I. 重点目標について

【ドロップアウト率5%未満】	
コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・年度の重点目標というより、絶えず0%に近づけなくてはならない問題と思われる。特に学校が起因する問題で退学している者がいるとすれば、その原因を早く察知し改善したほうが有効と思われる。 ・最近では、退職代行業者を通じて辞めるケースもあり、本人と直接連絡が取れないまま退職届が届くこともある。こうした状況は、企業側だけでなく、教育機関側でも事前の情報提供やコミュニケーションの重要性を再認識する必要があると感じている。 ・大学も含めた高等教育の中途退学の研究では、要因の中に、高校での進路指導が不十分であったということもある。高校時代に自己理解のないまま進学し、進学先とのミスマッチが生まれている可能性もある。進路指導の中で大学と専門学校の違いをテーマに挙げて実施している学校は少ない。 	3

【新しい教育改革推進】	
コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・「傾聴スキル」「質問スキル」「伝達スキル」など、授業や面談でのやり取りで取り組むことができないか。講師の皆様にもコミュニケーション能力を上げるためにセミナーなどを受けてもらうのも有効かもしれない。 ・面接時には非常に元気で良い印象を受けるが、実際に現場に入って会話をしてみると、元気がなく、性格が面接時の印象と違うと感じることが多々ある。そうした意味でも、基本的なコミュニケーションが取れる人材が増えると、職場としても非常に有用である。 ・有名企業や卒業生を迎えて説明会をするのは、学生にとっても有効だが、できれば「アーティスト」を招き、演出やどんな音を求めているのか？など表現者側の意見も聞ける場があると有効である。 	3

【教職員の働き方についての意識改革】	
コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・何がどのように達成されているか、デジタル化(視覚化)し、特に長時間労働している教職員に示すのも有効かもしれない。 ・学校として様々な取り組みを行っているが、業務の棚卸しを行い、本当に必要なものを整理しながら教職員の仕事量の削減につなげてはどうか。 	3

II. 各評価項目について

基準1 教育理念・目的・育成人材像

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・学生においては技術・知識も必要だが、元気がある、挨拶ができるなどの根本的な素養を引き続き育成していく必要がある。見直しは毎年行っているとのことだが、運営や経営の方針が時代に合っているかを確認する必要がある。 ・理念・目的・人材像は明確にされている。これらをもとに教育内容も設定されていることは評価できる。 ・特色ある教育活動が具体的にどのようなものであるか、どのように構築するのかを常に教職員が意識し、実施することが望まれる。 ・将来の自分の仕事をイメージできるように、音楽フェスやその他の現場の手伝いがあれば積極的に行くように指導も必要である。 	3

基準2 学校運営

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・情報システムや教育にかかわるシステムはAIなど日々進化する中で、学生サービス・学生ポータルサイトなども発展させることが望まれる。 ・災害時やトラブル時の対応策を事前に準備しておくことで、時間の短縮や混乱の回避につながる。企業では重要視されている取り組みであるため、学校でも導入を検討してはどうか。 	4

基準3 教育活動

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育や資格取得、キャリアアップに非常に力を入れていると感じた。高校では文部科学省からキャリアパスポートの導入が義務付けられており、学校行事やインターンシップ、ボランティア活動後に振り返りを行い記録することが求められている。大学の推薦型選抜では振り返りの度合いが評価項目となっており、志望理由書や調査書、推薦書にも反映される。 ・「目標達成シート」の活用、アイデアなど工夫がみられ、評価できるがすべての学科に準備されてはどうか。 ・新たな取り組み[BYOD]は評価できるが、その活用について継続的な検討が望まれる。 	3

基準4 学修成果

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・就職率が高いという印象を受けた。他の学校の状況は分からないが非常に良好であると評価する。 ・検定試験の受験率や合格率が下がっているという話を伺ったので、学生に対して資格や免許が自分の武器になるという認識を持たせることが重要だと感じる。 	4

基準5 学生支援

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・学生相談の体制は構築されており、特に留学生に対しての支援は手厚く感じ、評価できる。 ・学生にもキャリアパス制度のようなものを通じて、就職後にミスマッチが起きないように、1年次から会社や組織の仕組みについて教えることが大切だと感じた。 ・中途退学は学校運営にも影響があるため、細かな個別の対応を行い、退学の分析を継続することが望ましい。中途退学は様々な理由があるが、学校への期待と入学後のギャップ(マイナス要因)などがないか確認する必要がある。 ・臨床心理士による学生相談があるのはとても有効である。 	4

基準6 教育環境

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備・教育用具は十分に整備されている。しかし、学生が生活する環境の広さには余裕がなく、ロビーや休憩スペースの拡充が必要と思われる。校地校舎の問題はすぐには解決しがたいが、環境は募集にも直結する部分でもあるので将来的な計画が望まれる。 ・インターンシップ等の研修実施体制については、教職員の方々にとっては非常に負担が大きい業務になるが、質的また量的にも充実した学生の就職を実現するために、引き続きご尽力いただくことを願っている。 ・エンターテインメント業界では、様々な安全対策が取られているが怪我などが絶えない。新人や経験の浅い人が現場に入るとどうしても周りの流れについていこうと思えば慣れないため焦りなどから、怪我をすることが多いと感じている。危険な作業や怪我をしないための教育は必ず行ってほしい。 	4

基準7 学生の募集と受入れ

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・この評価基準に関しては、入試全体の問題が大きいと感じている。専門学校や専修学校、大学の各協会などでこの質を向上させる取り組みが必要だと考えている。 ・音響業界の専門学校がある中、「東放学園」を知っている高校の先生は1人もいなかった。もっと多くの高校に「東放学園」を知ってもらうのが課題である。 	3

基準8 財務

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・財務状況については、基本的には安定しているとの記述があるが、科目によっては差額のマイナスが見られる。また、学生募集に直結する問題でもあり、予算の分配方法や配分の仕方も見直す必要がある。今後数年間は特に注意が必要だと感じている。 ・行政から私学に対する各種補助金や支援金を継続的に得る方策が考えられるが、長期的な視点から、このような補助金や支援金について検討していく必要がある。 	4

基準9 法令等の遵守

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・法令違反による学生募集や金銭の授受は大きな問題となるため、発生した場合、学校として厳格に対応すべきである。またハラスメントやコンプライアンスについては組織的に対応していくことが重要である。 ・個人情報保護、ハラスメントに関する研修は事例をもとに年1回は幹部含め全教職員、実施したほうがよい。 	4

基準10 社会貢献・地域貢献

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学校資源を活用した社会貢献・地域貢献活動、また学生のボランティア活動に対して熱心に取り組まれていると評価する。今後も取り組みを継続していただくとともに、この取り組みを広報活動にぜひ役立てていただきたい。 ・以前は韓国からの留学生が多く、韓国語や文化を教えてもらう機会があった。現在は韓国の学生が少ないようですが、国際交流の機会を増やしていただけると望ましい。韓国語・英語・日本語ができる人材は音楽業界でも重宝されると聞いている。 	3

III. 所感

コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・評価の書き方について小項目には可能な限り「できている事柄」、「できていない事柄」、「継続中の事柄」をできるだけ具体的に表記を行い、まずは何ができていないのかに気づくことが大切である。 ・PDCA がしっかり回っている印象を受けた。DX 化についても記載したが、教職員の労力が大きいことも感じた。残業などの負担を減らす工夫も必要である。 ・学生募集や職業への接続に課題意識を持っていることがよく分かった。最近ではマスコミ業界に対するマイナスイメージが強くなっていると感じている。そのため、入学前から業界の現状について丁寧に説明することが、学生募集に有効ではないかと考える。 ・高校での「東放学園」の知名度はかなり低い。学校の雰囲気、設備、教職員はとても素晴らしい学校なので、改善の余地があると感じる。高校での学校説明会に出向き、パンフレットもたくさん高校に置いてもらうなど、もっと幅広く知ってもらいたい。

以上